

# 文化遺産ニュース

*Cultural Heritage News*  
from NARA

Vol.  
**26**  
March 2014

◎ 集団研修	1
◎ 文化遺産ワークショップ (スリランカ・キャンディ)	2
◎ 個人研修 (キリバス)	3
◎ 個人研修 (バングラデシュ)	4
◎ 国際会議「木造建造物の保存理念を再考する - 修理手法と保存の理念 -」/ イクロム総会2013	5
◎ 文化遺産国際セミナー 「世界遺産をめぐって - その保存と活用 -」/ 世界遺産教室	6

スリランカの世界遺産



# 集団研修

2013年9月3日から10月3日まで、アジア太平洋地域の16カ国から16名の研修生を招き、「木造建造物の保存と修復」をテーマに研修を実施しました。

## 参加国

バングラデシュ  
ブータン  
ブルネイ  
インドネシア  
カザフスタン  
キルギス  
ラオス  
モルジブ  
マーシャル諸島  
モンゴル  
ニュージーランド  
パキスタン  
フィリピン  
スリランカ  
タイ  
ベトナム



奈良県立民俗博物館

16名の研修生は、政府機関、大学、研究所などで、文化遺産の保護・保存、修理、管理に携わっています。今年度は「木造建造物の保存と修復」をテーマとして、保存修復における記録・調査の方法やその技術の習得を目的とした研修を実施しました。

研修では、日本だけではなく、広くアジアの木造建造物の特徴や保存修理について学ぶ講義や、薬師寺東塔の修理現場において図面を作成する実測実習、東大寺持仏堂においては彩色調査を行うなど、奈良県ならではの研修内容を盛り込みました。また、奈良を離れ、世界遺産白川郷、飛騨高山の町並保存地区を訪れ、伝統的な町並みを保存する取り組みとして防火設備や住民ネットワークづくりについての事例も見学しました。

この研修ではローマに本部があるイクロム（文化財保存修復研究国際センター）から講師を招き、研修生が自国



彩色調査実習 東大寺持仏堂



実測実習 薬師寺東塔



講義風景

における文化遺産保護の現状を報告し、その保存における課題等を議論するセッションも取り入れています。数多くの国の参加者が集まることから、アジア太平洋地域における情報交換やネットワークづくりにも貢献しています。



臨地研修 白川郷の消火器具を見学

## カリキュラム（概要版）

**講義**  
「木造建造物の虫害」「日本における木造建築の保存と修理」「木造建造物の評価及び調査・記録」「文化財の危機管理」など

**実習**  
「木造建造物の記録（写真）」（奈良県立民俗博物館）  
「木造建造物の調査と記録」（薬師寺）  
「彩色調査と塗装修理計画」（東大寺持仏堂）

## 臨地研修

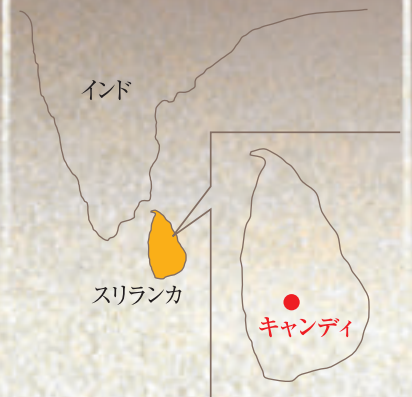
（奈良県）法隆寺、今井町伝統的建造物群保存地区、薬師寺、唐招提寺、東大寺など  
（他府県）彦根城（滋賀県）、白川郷合掌集落、高山市伝統的建造物群保存地区（岐阜県）、平等院、宇治上神社（京都府）

## 報告・討議

研修生自国の「現状と課題」についての報告と意見交換

# 文化遺産 ワークショップ

2013年10月21日から10月26日まで、  
スリランカ・キャンディで文化遺産ワーク  
ショップを開催しました。



エンパッカ寺院

スリランカは、インド洋上に浮かぶ  
北海道より一回り小さい島国で、世界  
的に知られたアヌラーダプラ、シギリヤ  
等、6件もの世界文化遺産がありま  
す。スリランカの中部を中心に優れた  
木造建造物が数多く残っているものの、  
高温多湿の厳しい気候条件のもと、  
著しく劣化が進行し、その保存が急  
務となっています。このような状況を



摺本実習

ふまえ、スリランカ国家遺産省考古局  
との協議を経て、「木造建造物の保存」  
をテーマとしたワークショップを開催  
することとなりました。  
研修は6日間の日程で、スリランカ  
中部の世界遺産、古都キャンディ郊外  
にあるエンパッカ寺院を対象に実施し  
ました。エンパッカ寺院は国内の木造  
建造物の中でも古い時期の建物で、柱  
に残る美しい彫刻で知られています。  
研修初日は、講師の林良彦さん(奈良  
文化財研究所)、近藤光雄さん(文化  
財建造物保存技術協会)から日本の  
保存修復方法等の概説の講義があり  
ました。現地実習は4日間で、建物の  
記録↓破損調査↓修理・管理計画の  
流れで進みました。博物館局、考古局、  
CCF(中央文化基金)という異なる  
部局から集まった15人の研修生は、そ  
れぞれ協力しながら実測図を作成し、



実測実習

破損調査、修理計画作成では、傾いた  
基礎、屋根に残る過去の修復痕跡等  
を参考にしながら、講師の指導のもと、  
修理方針を組み立てていきました。寺  
院に残る彫刻の記録については、講師  
の吉田恭純さん(奈良県文化財保存  
事務所)から、カーボン紙と薄葉紙を  
つけた摺本の実習と、摺本と写真か  
らパソコン上で図面を作成する記録法  
が実演を交えて紹介されました。

最終日には、各グループから「修理  
計画案」が発表され、講師を交え討  
論を行いました。研修生からは「この  
研修で得た情報や技術は、今後の文  
化遺産保護に非常に役に立つ」という  
感想が聞かれました。  
現地の文化遺産と言語を用い、各  
国の要望に合うプログラムを実施する  
ワークショップは、大変高い評価をいた  
だいています。



修理計画実習

# 個人研修

2013年8月1日から8月26日まで、キリバス共和国より2名の研修生を招き、「遺跡の調査・保存と管理活用」をテーマに研修を行いました。

## 研修生からのメッセージ



イトンガさん

この研修を通して世界遺産に対する価値観が変わり、世界遺産登録に向けて自分に与えられている使命のようなものを得た気がします。キリバスの文化遺産が世界遺産に登録されること、AOCU奈良事務所への恩返しになると思います。この研修に同僚のエナリさんと一緒に参加でき、学んだ知識や技術を一緒に国に持ち帰れることを非常にうれしく思います。



エナリさん

このような研修に参加するのは初めてです。GISの担当者なので、文化遺産についての専門用語や考え方がわからないことが多かったのですが、この研修で多くの新しい知識を得ました。帰国後は職場の人々と知識を共有し、学んだ事を広く伝えていきたいと思えます。



厳島神社

大洋州地域にあるキリバス共和国は、赤道と経度180度線をはさみ、広大な水域をもつ30余りの島から成る国です。広範囲に分布する文化財は、地球温暖化の海面上昇により深刻な事態となっており、これらの適切な記録・管理に課題を抱えています。

研修カリキュラムでは、遺跡の整備と活用、遺物の整理と管理システム等とともに、広範囲に分布する文化財を把握するためのGPS・GISデータの管理・活用についても重点をおきました。また、キリバスでは、信仰や風習などの無形文化遺産とも密接に関わる遺跡が多いため、同じような風景が残る奥飛鳥地域を訪れ「文化的景観」と呼ばれる概念についても学びました。臨地研修で訪れた神戸・広島において、阪神大震災や厳島神社の自然災害対策など、文化遺産の危機管理に関する



平城宮跡



講義「文化遺産マネージメントの実際」



写真実習(奈良文化財研究所)



法隆寺夢殿

事例紹介を聞いた際には、海面上昇による浸水被害を考慮せざるを得ない国情もあつて、身近な問題に感じたようです。

個人研修では、その国の要望をもと

にオーダーメイドでカリキュラムを編成することが出来ます。さらに、その国の言語を用いて研修することで理解力も深まることから、各国の政府からも高い評価を得ています。



講義「GPS・GISデータの管理・活用」

### カリキュラム(概要版)

#### 講義

「遺跡の整備と活用」「文化的景観の保存と制度」「遺物の整理と管理システム」「GPS・GISデータの管理・活用」「展示の方法と活用」「文化遺産の危機管理」など

#### 実習

「遺物の記録と調査法」「写真データ管理」

#### 臨地研修

(奈良県)平城宮跡、奥飛鳥、興福寺・春日大社・東大寺・法隆寺など  
(他府県)国立民族学博物館(大阪府)、北野町山本通重要伝統的建造物群保存地区(兵庫県)、厳島神社、原爆ドーム(広島県)など

# 個人研修

2013年11月5日から11月28日まで、バングラデシュ文化省考古局から3名の研修生を招き、「遺跡・遺物の調査と保存」をテーマに研修を実施しました。

## 研修生からのメッセージ

**ラフマンさん**  
奈文研や平城宮跡には毎日のように通ったので、ずっと前から知っているような錯覚を覚えるほど親しみ深い場所となりました。実測や製図などは、全てわかりやすく解説していただきました。理解したことを自国の職場で共有したいと思えます。日本人の優しさに触れたことが最も思い出深いことです。この研修で終わらず、今後も交流を続けたいと思っています。

**ファードウーシュさん**  
自国では博物館で働いていますが、日本の国公立それぞれ異なる機関が管轄する博物館を見ることができ、それぞれの違いを比較することができて良かったです。バングラデシュの博物館は、まだまだ展示の方法において改良が必要です。さまざまな日本の博物館を見て、自国で取り入れられるヒントを得ることができました。

**マーフズさん**  
バングラデシュは、保存の技術を学ばないと文化財がなくなってしまうという実際的な問題にも直面しています。建築専門家にとってもこの研修はとても有意義でした。この研修で学んだ事を後輩にも伝授し、文化財保存に活かしたいと思っています。母国語のベンガル語通訳のおかげで何を話しているのかの確にわかりました。非常に感謝しています。



法隆寺五重塔

をテーマとした研修を実施することになりました。

研修では、考古学の実習を中心としたカリキュラムを編成しました。遺物の記録法としては、講師の指導のもと土器・石器の実測図の作成や写真による遺跡・遺物の記録方法を実習しました。博物館実習では、遺物を梱包する作業や展示する作業も取り入れられました。

キリバス共和国に続き、南アジアのバングラデシュ人民共和国政府から3名の研修生を招聘し、2013年11月5日から11月28日までの24日間「遺跡・遺物の調査と保存」をテーマに研修を行いました。

バングラデシュは、日本の約4割の面積に約1億5千万人が暮らしており、今まさに発展の途上にあります。近年では近代化が進むにつれ、文化遺産についてもその保存・保全が急務となっています。バングラデシュ政府担当部局と協議を重ね、遺物の記録法、博物館学

日本各地でそれぞれ個性的な取り組みを行っている博物館を体感してもらったことにより、研修生からは様々な角度から博物館を捉えることができ多くの情報が得られたと大変好評でした。

研修生は文化遺産を保護活用する政府職員としての立場から、学び得た知識を広く自国の文化遺産保護に活かしていきたいと抱負を語っていました。また、これからバングラデシュでの文化遺産保護を進めていく上で、人材養成は欠かせないといった感想も聞かれました。



石器実測



写真実習



博物館実習



斑鳩文化財センター



九州国立博物館

### カリキュラム(概要版)

#### 講義

「遺跡の記録と調査法」「遺物の整理と管理システム」「博物館における展示の実際」「遺跡の保存科学」など

#### 実習

「遺物の記録法(土器・石器)」「博物館実習」「遺物の記録法(写真)」など

#### 臨地研修

(奈良県)奈良国立博物館、藤ノ木古墳、法隆寺、法起寺など  
(他府県)大阪歴史博物館(大阪府)、九州国立博物館、金隈遺跡(福岡県)、元町石仏(大分県)、清水寺二条城(京都府)など

## 国際会議

2013年12月17日から12月19日の間、文化遺産保護に携わる各国の専門家が奈良に集まり、国際会議「木造建造物の保存理念を再考する－修理手法と保存の理念－」を開催しました。



奈良県新公会堂

会議は、イクロム特別顧問のユッカ・ヨキレット氏による特別講演「木造建造物の保存理念」で始まり、文化遺産保護に関わる国際的な枠組みの歴史や保存理念に関して広い視点からの講演でした。続いての基調講演では、日本・文化庁の大和智鑑査官から、奈良文書と日本の木造建造物の保存について、中国・南京大学の朱光亜(チュウグワンヤ)教授から、中国の伝統的木造建造物修復における真正性とその価値についての講演がありました。

会議参加各国(中国、ネパール、スリランカ、ベトナム、インドネシア、ブータン、日本)の事例報告では、2日間にわたり、それぞれの国の木造建造物修理における理念や基本方針、それに基づいた具体的な修理の実例が紹介されました。

### 最終日午後の総

合討議では、講演と事例報告の内容を受けて議論が進み、奈良文書が出されて20年近くなるいま、あらためて真正性について活発な議論が交わされました。

また、会議に先立つ初日には、現在保存修理事業が進む橿原市称念寺本堂と法隆寺薬師坊庫裡の現場を訪れ、奈良県文化財保存事務所の担当者から日本の修理事業の実際について説明を受けました。



会議風景

## イクロム総会2013

ACCU奈良事務所  
所長 西村 康



美しいローマの町並 この一角にICCROMは事務所を構える

二年に一度開かれるイクロム総会が90か国の参加をえて11月27日から29日までローマのFAO(国際連合食糧農業機関)で開催された。ステファノ・デ・カルロ所長になってから初めての総会である。90か国という数はいつもと同程度であるが、ラオス、カンボジア、ベトナムなどからの馴染みの顔が見えないのが、少しばかり意外であった。

大方の議事は議論も少なく非常にスムーズに承認されていた。予期せざる進行であったが、これは事前の理事会による議論が十分になされ練られていたのが理由かも知れない。その一方では、規約改正の議案が出席者の定足数不足で評決できず、翌日の午前持ち越されるといふハプニングもあった。

ACCU奈良の活動としては、ワークショップを昨年はインドネシア、今年はスリランカで、いずれも木造建造物の保存修理と修復計画策定をテーマに実施したこと、国際会議を文化庁やユネスコ・アジア太平洋地域世界遺産研究研究所上海センターと共催で12月に奈良にて行う予定であることを紹介した。

# 文化遺産 国際セミナー

2014年2月1日、ならまちセンター・市民ホールで、文化遺産国際セミナー「世界遺産をめぐって—その保存と活用—」を開催しました。



座談会風景

今年の世界遺産を数多く旅してこれ、講演活動をなさっている世界遺産研究家の久保美智代さんと、保存科学がご専門で、遺跡や壁画の保存の分野でご活躍の澤田正昭さんを迎えてお話をいただきました。

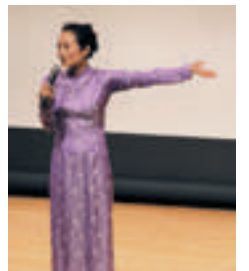
最初は久保美智代さんに「世界遺産、わたしが選ぶベストテン」と題してお話いただきました。世界各地約360カ所の世界遺産を巡ってこられた経験から、世界遺産にはどのような意義があるのか、体験と考察を交え楽しく語っていただきました。世界遺産条約の発端となったアプシンベル神殿の事例から、アウシュビッツ強制収容所の「負の遺産」まで多くの世界遺産から学ぶべきものについて熱く語っていただきました。

続いての講演は、保存科学の専門家、澤田正昭さんです。現存する古代の仏像や壁画について、なぜ長期間にわたって保存されてきたのかというお話をいただきました。保存の具体的な仕組みから、保存に必要な条件、また発見後に痛んでしまった文化財が置かれた状況なども、分析結果とともに、詳しくかつわかりやすく解説してくださいました。また、世界中を巡って各地の文化遺産を保護修復する技術を伝えたご経験も語っていただきました。

座談会は「世界遺産の保存と活用」をテーマに、いかに保存し活用していくのか、それぞれの立場から活発な意見が交わされました。久保さんからは、世界遺産を見学するために手厚く設備を整える日本社会の例とともに、これとは逆に海外では自然のまま、できるだけ手を加えずに保存している例があることの紹介もありました。澤田さんは専門家の立場から、保存というのは活用が前提になって初めて意義があるのではないかとの提言がありました。参加者からは、保存の仕組みがよくわかったという感想や、世界遺産の奥の深さを知り、是非各国の世界遺産を訪れてみたくなったという声が聞かれました。



澤田正昭さん



久保美智代さん

## 世界遺産教室

奈良県内には、3カ所の世界遺産をはじめ、多くの文化遺産と文化財、また文化的景観があります。ACCU奈良事務所では、奈良県内の高校生を対象に、日本をはじめとして、世界各国の世界遺産を題材にした「世界遺産教室」を開催しています。年を追う毎に開催を希望する学校も増え、現在は8校で実施しています。

今年度も講師には、これまでに約360カ所の世界遺産を訪れておられる世界遺産研究家の久保美智代さん、数々の国際舞台で活躍される通訳の小野以秩子さんをお願いしました。講師の方は、ご自身で訪問された各国の世界遺産を映像で紹介するとともに、クイズを交えたりしながら、世界遺産の大切さを熱く語ってくださいました。高校生たちからは、自分たちの町に誇りを持った、自分も世界遺産を旅したくなった、という感想が寄せられています。近年の高校生は、近隣の中学校と交流を持ったり、自分たちの郷土について調べたり、多様な学習方法を身につけていくようです。質問も多岐にわたる、積極的に議論しようとする真摯な姿がみられました。文化遺産保護をになう次の世代が、さらに深く文化について学びかけになれば、これに勝る喜びはありません。当事務所としても、この「世界遺産教室」をきっかけに将来の国際交流がさらに深まるのを楽しみに期待しています。



久保美智代さん(五條高校)



小野以秩子さん(高田高校)

# スリランカの世界遺産

表紙の写真：オランダ改革派教会



スリランカには2つの自然遺産と6つの文化遺産、合わせて8つの世界遺産があります。そのなかで、スリランカ南西端にある「ゴール旧市街とその要塞群」は、1988年に世界文化遺産に登録されました。

旧市街の北東の一角に建つオランダ改革派教会（表紙）は、18世紀中頃に建設されたスリランカで最も古いプロテスタント教会です。

## ✿ ゴール旧市街とその要塞群

ゴールはヨーロッパ人が建設した城塞都市で、今に残る旧市街とそれを取り囲む城壁という基本的な形は、オランダ植民地時代の17世紀中頃に形作られたものです。その後オランダから支配権を奪ったイギリスにもこの町並みは引き継がれ、それぞれの時代を反映した教会をはじめとする多くの建物が残っています。この城壁は、2004年スマトラ島沖地震による津波からゴール旧市街を守りました。



ゴール要塞の城壁



オール・セイントス教会

## ✿ 古代都市シギリヤ

スリランカ中部にあるシンハラ王朝（5世紀）の遺跡で、1982年に世界遺産となりました。周囲から屹立する巨大な岩山（シギリヤ・ロック）の頂上には王宮跡、麓の濠で囲まれた広い区画には水路、庭園等が造られていました。岩山中腹の岩壁には、「シギリヤ・レディ」として知られる女性像のフレスコ画が残っています。



フレスコ壁画



シギリヤ・ロックと庭園



公益財団法人  
ユネスコ・アジア文化センター  
文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町 757(奈良県奈良総合庁舎1階)

TEL 0742-20-5001

FAX 0742-20-5701

URL <http://www.nara.accu.or.jp>

E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

### 交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
  - 徒歩約20分
  - バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ

- JR奈良駅から
  - 徒歩約25分
  - 西口5番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ